

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛知県三河青い鳥医療療育センター（児童発達支援センター）			
○保護者評価実施期間	令和7年11月15日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年11月15日		～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者自己評価表作成日	令和8年2月28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	肢体不自由児、重症心身障害児、医療的ケア児を対象とした、専門的な支援の実施	保育スタッフによるこどもの障害特性に合わせた保育の実施 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による専門リハビリの実施	スタッフの専門性をより高める
2	肢体不自由児、重症心身障害児、医療的ケア児の療育を行う設備環境が整っている	安全かつこどもの障害特性に合わせた設備環境を整えている	継続して設備環境整備に努める
3	三河青い鳥医療療育センターとしての地域支援の実施	保育所等訪問支援事業、障害児相談支援、障害児等療育支援事業、外来診療など、児童発達支援利用者に限らない地域支援を行っている	支援の質をより高める

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時等の対応（周知不足、一部マニュアル未作成）	防災訓練は月に1回実施しているが、第3金曜日と固定されている為、参加者が限られている。 防犯マニュアル等、一部マニュアルが整備されていない箇所がある。	防災訓練を固定の曜日では無く、不定期に開催する。曜日の変更が難しい場合は、参加出来なかった利用者へ情報共有や通園単独での避難訓練の検討をする。 整備されていないマニュアルは、早急に作成し、関係各所に共有する。
2	適切な支援の提供（他保育所等との活動機会不足）	当センターは、設置場所や施設の性質上、保育所や幼稚園等、他施設や地域の子どもと活動する機会がない。	地域との交流が出来るよう、検討を行う。
3	業務改善（第三者評価受審の情報共有不足）	令和5年度に第三者評価を受審したが、職員の変更等により一部の職員が評価結果等を把握していない状態である。	新たに配属された職員にも評価結果や、それに対する業務改善（進捗状況）を共有する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	愛知県三河青い鳥医療療育センター（児童発達支援センター）
------	------------------------------

公表日 令和8年2月28日

利用児童数 10名

回収数 10名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10				・とても広々としています	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8	2			・今の人数で問題ないと思います。児童が増えたら少し大変になると思います。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10				・子どもの様子を丁寧に見てもらっている	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9			1		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10				・面談をして、子どもに合った計画を作ってくれています	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10				・今の子どもに合った支援がされている	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10				・毎回違う活動を準備してくれて本人も楽しんでいる	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	5	1	・交流はないと思います。色々な刺激はほしいです	インテグレーションの場面をどのように作っていけるか検討します
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	1	1		親子通園を基本として、家族支援は日常的に行っており、父親参観日を設け、そこで父親向け講話をする等しているところです
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10					
	17 事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	10				・いつも相談ののってもらってたすかっています	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6		2	2		コロナ禍以降、きょうだいが一緒に登園することの制限が続いています きょうだい支援を課題として認識し、できることを探っていきます
	19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10					
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9				1		

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			2		登園日の関係で避難訓練に参加できていない利用者様が見えますので、対応の検討をします
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6		1	3		登園日の関係で避難訓練に参加できていない利用者様が見えますので、対応の検討をします
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			1	・発生したことがないので分からないです	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9	1			・日によります	ひとりひとりのこどもに合わせて配慮ある支援を目指してまいります
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	9	1			・日によります	ひとりひとりのこどもに合わせて配慮ある支援を目指してまいります
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				・手厚く支援をいただき大変満足している ・スタッフの方々がとても優しく気にかけてくださるので、安心して通うことができます	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		愛知県三河青い鳥医療療育センター（児童発達支援センター）				
		公表日 令和8年2月28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個室が必要と思われた場合はついたてをして仕切っている	こどもが個別の部屋や場所を使用できる構造にはなっておらず、現状、改修は困難
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	2		PDCAサイクルによる業務改善は定着していない
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎年、利用者満足度評価を行い、利用者の意見を把握してきた	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		第三者評価を受審しているが、それが全職員共有にはなっていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1		・センター内では研修はあるが、児発センターのスタッフとしての研修はない
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		アセスメントツールが全職員自信を持って使えるまでに至っていない
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	地域支援は行えていないと自己評価する職員がいる
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	むしろ朝の時間の方が集まりやすい。また、短時間でも話し合う時間を作るようにしている	職員の勤務時間の関係から支援終了後に全職員で振り返りを行う時間はとれない
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	2	2	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1	3	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	3	児童発達支援センター部門のみでなく、オール三河青い鳥で支援を行っている	関係機関との連携に参画することのない職員がいる
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		当センターとしてインテグレーションの場を設けることはできていない
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		コロナ禍後、きょうだい同士で交流する機会はない
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	三河青い鳥まつりの開催、見学や実習の受け入れを行っている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	4		防災訓練が全員参加になっていない
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2		防災訓練が全員参加になっていない
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1		「医師の指示書」という形はとっていない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	2		安全計画の周知がまだ不十分である
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	1		安全計画の周知がまだ不十分である
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	2		危険を避けるために職員がこどもの動きを制限することはあるが、それをあえて身体拘束として保護者に説明することはしていない